

便利な小物  
あれこれ

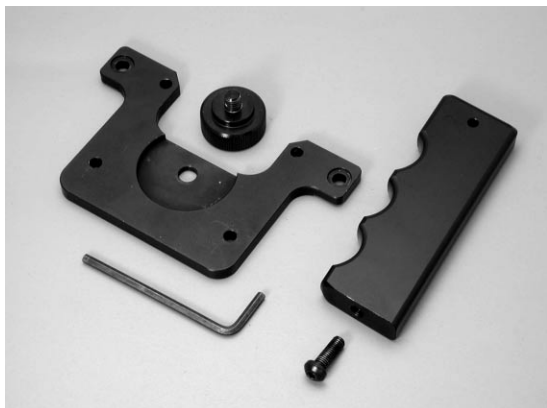
## ドルチェビータ (ローライフレックス用グリップ)

～ 映画『甘い生活』のパパラッツォ氏愛用の品 ～

価格：¥23,800

問合せ：メディアジョイ

(075)257-5435



グリップはアルミブロックからのけずり出し。グリップ部は付属の六角レンチで左右の付け替えができる。またカメラ底部の4本の足をグリップ側の穴にはめる構造なので、使用中にグリップが回転することがない。グリップを取り付けたままフィルム交換も可能



映画の中のパパラッツォ氏は、グリップを右下に取り付け、グリップを握ったままシャッターが切れる態勢を好んだようだ。この場合、透視ファインダーを使用。ピント合わせとフィルム巻き上げの優先順位は低かったと思われる



操作部がカメラの右側に集中しているローライコードでは、グリップを左下に取り付けると手を持ち替えることなく各部の操作ができる

このグリップは、フェデリコ・フェリーニ監督の映画『甘い生活(原題/ラ・ドルチェ・ビータ)』から名付けられた。主演はマルチェロ・マストロヤニ。

雑誌記者を演じる彼の相棒であるカメラマンの愛機がローライフレックスで、このカメラに今回紹介するグリップが付いていたのだという。ちなみにカメラマンの役名はパパラッツォ。現在、有名人を追い回すカメラマンのことをパパラッチと呼ぶが、この作品が語源になっているらしい。

今回紹介するドルチェビータの特徴は、ボディ下部、左右どちらにもグリップが取り付けられることである。映画のスチル写真を見るかぎり、かのパパラッツォ氏はボディの右側にグリップを取り付け、透視ファインダーを使ってアイレベルでパパラッチしていたようだ。たしかにこうすればグリップを握った右手でシャッターが切れるし、空いた左手にはフラッシュガンを持つことができる。ただしこの態勢ではフィルムを巻き上げたりピントを合わせることは不可能である。しかし考えてみれば、当時のフラッシュガンは1回光ればそれで済みます。おそらくこの作品が撮影された1960年ごろは、一発必中スタイルが幅を利かせていたのだろう。

ローライの二眼レフ用グリップといえば、ボディの真下に取り付ける純正品が有名だが、こちらは右手保持を前提にデザインされているのでグリップが斜めに付いている。さらにトリガー式レリーズが付いていたりとかなり物々しい。自分の使いやすいように持てる、という意味では、ドルチェビータのほうに軍配が上がるだろう。またドルチェビータは取り付けただまカメラの裏蓋が開閉できるのに対し、純正品はいちいち取り外す必要がある。フィルム交換が迅速に行えるという点でも、パパラッツォ氏がこのドルチェビータを選んだことは納得できる。

もともとローライフレックスのような二眼レフは、ホールド性がそれほど良くない。現代のローライフレックスユーザーが、パパラッツォ氏のような使い方をするかはともかくとして、ローライフレックスをより使いやすくするという意味で、意義のあるアクセサリである。さらに今回復刻されたグリップは、金属ブロックからのけずり出しと、非常に豪華かつ堅牢な作りになっている。実用面だけでなくファッション性の面でも満足できる製品といえるだろう。

(中村 文夫)